

景気ウォッチャー調査・近畿地域結果(令和6年1月) ～百貨店、観光業界を中心に能登半島地震の影響が広がる～

- 景気ウォッチャー調査・1月調査の近畿地域の結果は、現状判断が50.1と前月比で3か月ぶりの低下(−2.9ポイント)となった。まだ好不調の判断の目安となる50.0は上回っている。一方、先行き判断は53.1と3か月連続の上昇(+0.3ポイント)となった。
- 足元の景気については、能登半島地震による影響が目立つ形となっている。国内外からの旅行客の減少に加え、幅広い買物の自粛行動などにもつながったことで、百貨店やホテル、さらに家電量販店や各種小売店等からも、客足の減少に関する声が上がっている。
- こうした状況ではあるものの、インバウンド市場は全体として好調な推移がみられ、年始以降も関連業界で活発な動きとなっている。円安環境の継続もプラス材料となり、百貨店やホテル、コンビニ等を中心に、旺盛な需要がみられる。一方、物価やコストの上昇による悪影響は継続している。一部では消費者が値上げに慣れてきたという声もあるものの、実質賃金の前年割れなどを背景に、節約志向が月ごとに強まっている。
- 先行きについては、能登半島地震の影響につき、旅行業界等を中心に懸念の声が続いている。ただ、全体的にはインバウンドの増加が見込まれる中、百貨店やホテル、コンビニを中心に、売上の増加を期待する声は多い。特に、春節が控えていることもあり、中国人客の増加を予想する声は多く、円安環境による追い風もあいまって、インバウンド市場の先行きには総じて楽観的な声が多い。
- また、今春は前年に続いて大規模な賃上げが見込まれる中、それに伴う好影響を期待する声が少ない。百貨店などに加え、スーパーや一般小売店からも、賃上げ効果を期待する声が上がっている。
- その一方、物価やコストの上昇に対する警戒感を引き続き強い。消費者の節約志向が強まる中、価格転嫁が徐々に困難となっており、スーパーを中心とした小売関連やレストランのほか、製造業などの企業関連でも厳しい声が聞かれる。

「能登半島地震」関連のコメント(現状判断)

家計動向関連	変わらない	一般小売店 [時計] (経営者)	・年末年始が大型連休となった割に、来客数は悪くなかった。ただし、明るさはなく、年明けに未曾有の災害や航空機事故があったことで、客との会話はそれに集中した。客は買物だけではなく、何気ない会話や感情の共有を求めている。これは個人店舗ならではの感覚であり、営業を続けてきて良かったと感じる。
		その他小売 [ショッピングセンター] (総括)	・売上は前年比で99.9%となった。能登半島地震の影響もあり、年始の消費が盛り上がりなかった。月後半も寒波の影響などで厳しい。
		旅行代理店 (店長)	・能登半島地震の影響でキャンセルが相次ぎ、旅行先の変更で対応する客は僅かであるなど、販売への悪影響が大きい。また、ジャパンレールパスの値上げの影響で、1月に入ってインバウンドの売上も落ち込んでいる。
	なっている	一般小売店 [鮮魚] (営業担当)	・能登半島地震の影響でインバウンドの客足が遠のいた結果、来客数が50%落ち込んでいる。

家計動向関連	やや悪くなっている	百貨店（外商担当）	・年明けからの能登半島地震の影響で、海外からの旅行客が減少し、インバウンド売上はかなり落ち込んだ。さらに、海外のブランド品を中心とした値上げにより、国内客の売上も減少に転じている。
		百貨店（宣伝担当）	・暖冬の影響で、前月までは季節商材の動きが鈍かったが、1月に入って値下げとなるため、需要の増加を期待していた。ところが年明け早々の能登半島地震により、初売りがつまづく形となった。インバウンド売上は引き続き好調であるが、国内客の消費マインドが戻っておらず、売上に力強さがみられない。
		百貨店（売場マネージャー）	・能登半島地震による影響もあり、購買意欲が低下している。インバウンド売上は堅調に推移している一方、国内売上の鈍化がみられる。
		百貨店（マネージャー）	・今月は月初めの能登半島地震の影響で、客の動きに加え、購買動向にも若干の変化がみられる。客の動きでは、インバウンドを中心に旅行のキャンセルが一部でみられ、来街者が減少している。また、購買意欲も低下しており、生活必需品以外のファッション関連を中心とした商材の動きが厳しい。
		百貨店（マネージャー）	・1月1日に発生した能登半島地震により、店のある地域は北陸に比較的近いこともあり、自粛ムードが漂っている。消費マインドがやや悪化したと感じるほか、年始のクリアランスセール売上は一定の水準となったものの、暖冬予想の影響で防寒系の高額商品の動きが鈍い。ただし、インバウンドは依然として堅調に推移している。
		コンビニ（経営者）	・例年、年明けは販売量が少なくなるが、今年は能登半島地震の影響があるのか、例年以上にスタートが遅いと感じる。
		衣料品専門店（店長）	・3か月前と比べて一般客の来店が半減し、単価も落ちている。年始からの能登半島地震や物価上昇の影響など、原因は多岐にわたる。
		家電量販店（店員）	・正月早々に能登半島地震が発生し、客の購買意欲が薄れている。自然災害の恐ろしさが人に大きな不安をもたらしており、購買意欲の低下がみられる。
		乗用車販売店（経営者）	・今年は年始から能登半島地震や航空機事故があり、前年から続いている政権政党の政治資金問題も解決には至っておらず、雰囲気としては暗い1年のスタートとなっている。
		一般レストラン（店主）	・新年早々、災害や事故などで気分的にもやや重苦しく、世間の動きも控えめである。
		観光型旅館（経営者）	・元旦に発生した能登半島地震の影響で、1月2日の初詣からの日帰り客が一斉に減った。東京や京都、大阪といったゴールデンルートはインバウンドの増加で好調となっているが、コロナ禍のリベンジ消費も落ち着き、その他の地方では、集客に苦しんでいる。
		旅行代理店（支店長）	・能登半島地震の発生により、北陸地域の予約がほぼキャンセルとなった。風評被害もあり、新たな予約はみられない。また、株価上昇の影響は一部の富裕層への恩恵にとどまり、物価の上昇が徐々に旅行への支出に悪影響を及ぼしている。
		その他住宅〔住宅設備〕（営業担当）	・元旦に発生した能登半島地震の影響で、担当エリアの事業所が大変な状況と聞いている。当地から人的な応援を出すことはないが、他人事とは思えず心配している。
悪くなっている	観光型旅館（経営者）	・能登半島地震以降、予約の動きが止まった。特に、富裕層の動きが極端に悪くなったほか、インバウンドの予約キャンセルも出ている。	

「賃上げ」関連のコメント（先行き判断）

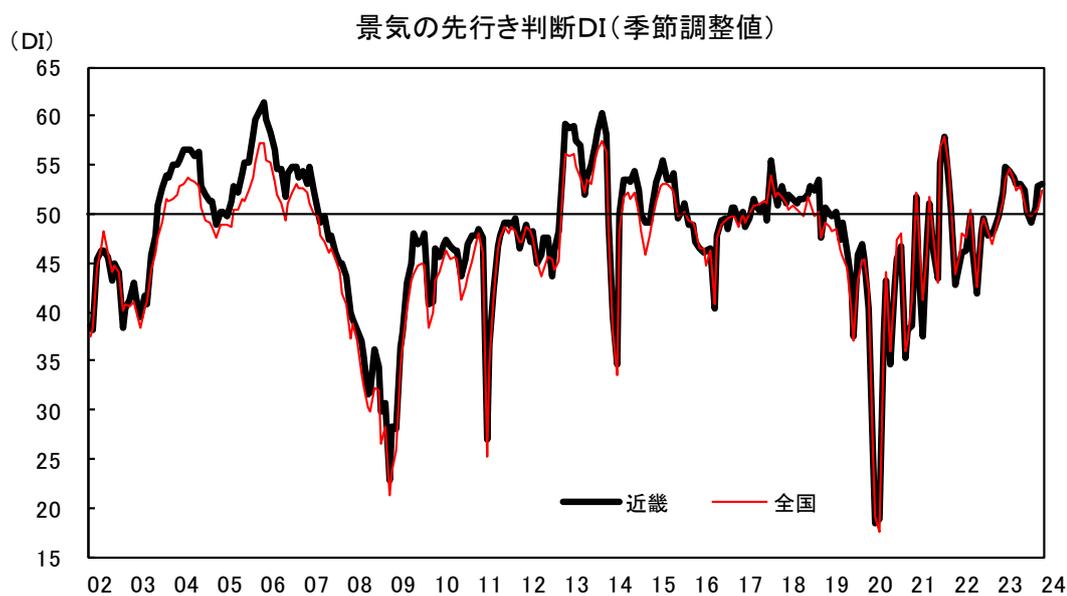
家計動向関連	良くなる	百貨店（外商担当）	・インバウンド売上は、今後更に増加することが予想される。また、全国的な賃上げの実施により、消費者の購入マインドが高まる。
		スーパー（企画）	・大手企業を中心とした賃上げの動きが、中小企業にも波及するとの期待が高まっている。年収の壁への対策の効果も出てくると予想される。
		スーパー（企画）	・春闘による賃金の増加が予想され、物価の上昇への耐性が強まる。
		その他専門店〔ドラッグストア〕（店員）	・季節が変われば、新生活関連での新規客の来店が見込まれ、期待どおり賃金が増えれば支出も増える。現状も、日用品の新商品の販売に対し、客の敏感な反応がみられる。
		その他レジャー施設〔複合商業施設〕（職員）	・食料品の値上げに不服感がみられるなか、企業業績も好調で、賃上げ気運も高まりつつある点に期待している。
	変わらない	一般小売店〔野菜〕（店長）	・今後賃金の上昇が見込めるようになれば、景気は良くなる。
		百貨店（マネージャー）	・大きな流れに変化はない。春節を迎えてインバウンド需要は更に増えるほか、価格に左右されない富裕層の需要も、一定の好調を維持する。一方、国内の中間層は、賃上げの効果で収入が増えたとしても、自分にとっての意味のある消費を中心とした、選択消費を続けると予想される。
		百貨店（店長）	・今年の賃上げに対する実感が出てこなければ、消費は上向かない。一方、日本人はデフレに慣れているため、消費の2極化や、高所得者と低所得者の消費の格差、ハレの日とふだんの消費の差といった動きには変化がないと予想される。結果として、今後もインバウンドの需要と、高所得者による特選品の購入頼みとなる。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経理担当）	・今春の賃上げのほか、価格転嫁がどの程度進むのかに左右される。それまでは現状と変わらない水準で推移すると予想される。

家計関連	変わらない	遊園地（経営者）	・物価の上昇に賃上げが追いついていない。4月の賃金改定によって、レジャーや余暇消費などの消費が増えるのか、現状は不透明感が拭えない。
	くやなる	スーパー（社員）	・前年が比較的好調に推移したこともあり、しばらくはその反動減が予想される。店頭は依然として活況であるため、好調が続いてほしいが、当面は春先の賃金動向に左右されそうである。
企業関連	変わらない	窯業・土石製品製造業（管理担当）	・春闘の行方を見守りたい。大手企業を中心に賃上げムードではあるが、物価の上昇を打ち消すほどの賃上げを、中小企業ができるかどうか注目される。
	くやなる	食品製造業（営業担当） 金属製品製造業（営業担当）	・更なる物価上昇により、消費者の購買意欲が低下しているため、少し悪くなる。春闘でベースアップが進めば、また状況は変わる。 ・春の賃上げや、鋼材などの材料コストの上昇が見込まれるが、価格への転嫁が順調に進まず、採算の悪化が予想される。
雇用	くやなる	人材派遣会社（役員）	・2年連続でベースアップを実施する企業を含めて、賃上げを行う企業が前年よりも増えるほか、円安や株高傾向もあり、消費者の先行きへの警戒感が少し緩和と予想される。

「能登半島地震」関連のコメント(先行き判断)

家計動向関連	やや良くなる	百貨店（マネージャー）	・あくまでも直近の来客動向の停滞は、能登半島地震の影響と考えられ、一時的な動きにとどまる。インバウンドを始め、旅行者を中心に外出意欲が衰えることはないため、春節などでの客の動きが期待される。
		一般レストラン（店主）	・能登半島地震の復興が早く始まり、インフラ工事や観光関連の動きも進んでほしい。
		タクシー運転手	・景気の上向き材料がない。物価の上昇や政治の不安定感、能登半島地震関連の報道で、気持ちの上でも暗い雰囲気となっている。
		その他レジャー施設〔飲食・物販系滞在型施設〕（企画担当）	・インバウンドの好調が続くと予想される。特に中国からのインバウンドの増加に期待したい。国内客については、能登半島地震の影響による外出の減少があるのかどうか、気になるところである。
	変わらない	百貨店（マネージャー）	・月末になり、能登半島地震の発生に伴う自粛ムードはやや緩和したが、来客数の伸びに勢いが無い。また、2月の気温も高めで推移するほか、春節での中国人客の増加も予想したほどの勢いはないため、売上を押し上げる要素は引き続き少ない。
		乗用車販売店（経営者）	・年始の能登半島地震により、消費行動にどのような影響が出るのかは不透明である。
		乗用車販売店（経営者）	・能登半島地震や政権政党の政治資金問題だけでなく、大手自動車メーカーの生産停止など、経済的にもダメージのある事件や事故が発生し、消費に関心が向かう気配は余りない。コロナ禍収束後のインバウンド需要をどれだけうまく取り込んでいけるか、人手不足をどう解消していけるかが、今年の景気浮揚の鍵となる。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（総括）	・売上、来客数共に伸びているが、増勢は鈍化傾向にあり、コロナ禍収束後の活発な消費が落ち着いてきた。インバウンドは増加傾向であるが、以前の爆買いのような行動はみられない。能登半島地震や天候不順、芸能スキャンダル、政治資金問題など、暗いニュースが多く、消費意欲を押し上げる材料が少ない。
		観光型旅館（経営者）	・能登半島地震による影響が今後も続く予想される。
		旅行代理店（支店長）	・国内旅行は、能登半島地震や物価上昇の影響で大きな伸びは期待できないものの、円安が少し落ち着いてきたことで、海外旅行の問合せが少し増えている。また、海外の団体客からの問合せも徐々に増えつつあるなど、全体的にはプラスとマイナスが相殺されている。
		観光名所（企画担当）	・来場者はコロナ禍の当時と比べて、ほぼ一定の増加率で推移しており、これ以上は伸びない状況となっている。インバウンドは一定の比率で増えているが、能登半島地震が影響しているのか、国内客は少し減少していることが心配である。
	やや悪くなる	一般小売店〔時計〕（経営者）	・能登半島地震により、改めて自然の怖さが思い知らされた。1か月が経過しても悲惨な状況が報道され、数年ごとに発生する大きな災害に、他人事ではない感覚が広がっている。復興への協力などに人の気持ちが向かっているため、景気の改善には程遠い。
		百貨店（売場マネージャー）	・原料価格の上昇による物価の上昇などで、生活防衛意識が強まっている。特に、1月初旬の能登半島地震をきっかけに、シニアの来店が減少傾向となり、買い控え感が広がっている。一方、円安効果によってインバウンド売上は好調に推移している。
		スーパー（店長）	・能登半島地震や物価上昇などの影響で、心理的にも消費は減退傾向になると予想される。
		観光型旅館（団体役員）	・能登半島地震の復興が進んでいないこともあり、感覚的には旅行を控えようとする。また、政府が発表した北陸応援割の影響で、当地域への来訪客は減少すると予想される。
通信会社（経営者）		・能登半島地震の影響で原材料が入手困難となるほか、円安による価格の高騰が懸念される。	
なる悪く	観光型旅館（経営者）	・旅行の需要は景気に左右されるほか、団体旅行が新型コロナウイルス感染症や能登半島地震の影響で中止になったとの情報もあり、非常に苦しい。	
企業	変わらない	建設業（経営者）	・能登半島地震の影響で、耐震診断の問合せは増えているが、改修工事につながるかどうかは疑問である。

(DIの推移)



(近畿地域のDI)

		22年										23年										24年												
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1
現 状 判 断	近畿	39.4	37.6	46.8	48.5	50.7	50.7	38.8	43.3	50.8	51.3	51.6	52.3	51.5	52.9	53.7	54.2	53.8	53.1	53.4	53.2	52.6	51.1	52.8	53.0	53.1								
	(全国)	38.6	37.5	46.4	48.3	51.8	51.8	43.0	45.5	49.5	51.8	50.6	49.8	49.2	52.1	52.6	53.3	53.5	53.2	53.4	53.5	50.7	50.7	50.8	51.8	50.2								
先 行 き 判 断	近畿	42.8	45.0	46.0	46.3	49.9	46.3	41.8	48.0	49.6	47.9	48.1	48.4	49.7	52.3	54.8	54.5	53.7	53.0	53.0	52.4	50.2	49.1	50.6	52.8	53.1								
	(全国)	43.8	45.9	48.1	47.5	50.4	48.1	42.6	48.8	49.6	48.2	47.0	47.8	49.5	51.4	53.6	54.6	53.5	52.4	52.8	51.1	50.1	49.8	50.3	50.4	52.5								

※季節調整値